

明治神宮の総合結婚式場として1947年に造られた明治記念館には、大小様々な宴会場が用意されています。高砂を雄大な景観で飾る「蓬萊の間」は、壁面には世界最大級の綴錦織^{つづれにしきおり}が展示されており、室内の照明は54基で構成した光天井と、その中央には伝統ある建築イメージのシャンデリア、周囲にはダウンライトを配置。今回、これらの照明は、従来のイメージを維持しながらLEDに更新し、高い省エネ性と、メンテナビリティを実現しています。

明治記念館は、1947年に開館して以来、当時と変わらぬ伝統と新たな調和を紡いできており、婚礼や慶事はもちろん、式典、会食などの集いの館として広く親しまれています。大小合わせて20を超えるバンケットホールを有しており、中でも「蓬萊の間」は、自然をモチーフに森や山をイメージし、室内の両側には庭園を眺められる広い窓を設け、壁面には蓬萊山を織り込んだ世界最大級の綴錦織を展示。また、幾何学的なデザインで格調高い美しさを兼ね備えたシャンデリアを配置しており、和風はもちろん和洋折衷としても設えが可能な空間としています。



【物件概要】
所在地：東京都港区元赤坂 2-2-23
面積（蓬萊の間）：463㎡
施主：明治記念館
施工：三興電気株式会社
照明リニューアル：2017年10月



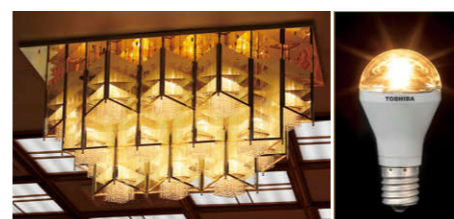
1947年の開館以来の、趣ある空間雰囲気を再現している蓬萊の間①②③④

シャンデリアに使用した煌めき感のあるクリヤー LED 電球を中心として開館当時の風格ある空間雰囲気を再現

「蓬萊の間」の照明は、ベース照明として直接光源が視認できないよう配慮して乳白カバーで覆ったLEDバータイプ器具で構成された54基の光天井を配置。光の広がりや乳白カバーまでの高さを考慮し、均一発光が得られるよう工夫しています。その光天井の周囲に設けたグレアカット45°のLEDダウンライトは、光源の眩しさを抑制し、バンケット内の照明の存在感を抑制しています。中央に設置した3基のシャンデ

リアは、シャンデリア用クリヤーLED電球を用い、下限域でもチラツキを抑えた0～100%のスムーズな調光を可能とし、ピーズへの拡散光により分光効果が現れているなど、伝統的な照明デザインを技術的に再現した高輝度な煌びやかさを有しています。

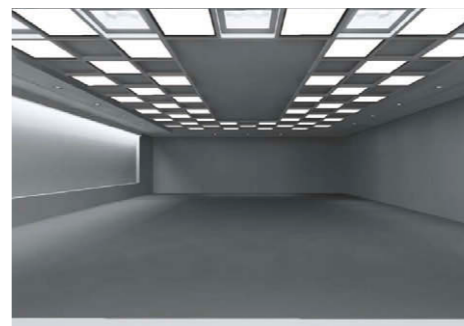
また、綴錦織への照明は、TENQOOシリーズのトラフにより柔らかな光で照射し、織物全体を美しいグラデーションで浮き立たせています。



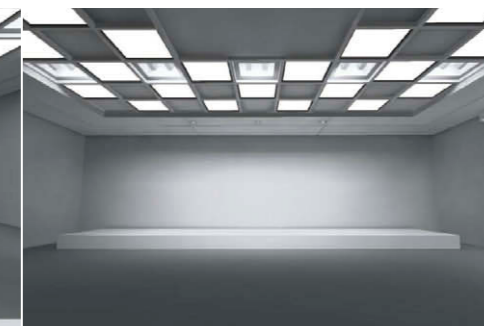
シャンデリア用クリヤーLED電球(100%点灯時) LED電球に導光柱を設置していることで、煌めき感が視認できるほど高輝度なあかりを創出⑤



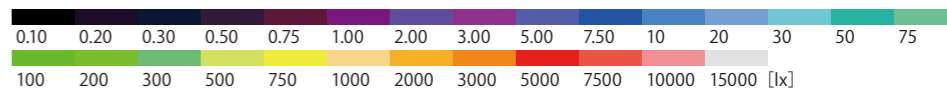
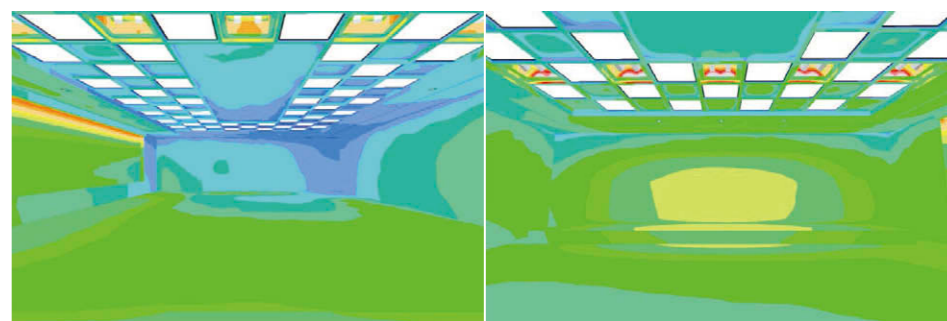
ベース照明を消すと低色温度の器具が現れ、窓から見える庭園の自然色とマッチした空間雰囲気へと変化③④



登壇者目線からホールを見たイメージ(上図)および照度分布(下図)



聴講者目線から高砂を見たイメージ(上図)および照度分布(下図)



主な納入機器一覧				
設置場所	器具名(品名)	形名	台数	備考
蓬萊の間	①TENQOOシリーズ直付形	LEKT407403N-LD9	324	消費電力：24.8W
	②LEDダウンライト	LEDD-21311VV-LD9-KAI	16	消費電力：18.6W
	③シャンデリア×3基	LDADC5LHE17C/D-AL (LEDランプ)	38個/基	消費電力：4.6W/個
	④TENQOOシリーズ(綴錦織用)	LEKT407403N-LD9	17	消費電力：24.8W
	LEDスポットライトFORTEX Junior	AL-LED-FSJ-L	8	消費電力：140W
調光操作卓	TOLSTARIII	TRDM3-20M	1式	—